

奥田専務 閉会挨拶

紹介いただきました奥田でございます。本日は、第7回のワシントンレポートを開催させていただきましたところ、皆様方には朝の10時からご視聴いただき、また、両先生にはコメンテータ、モデレータとしてのご参加ありがとうございました。事務局に聞いたところでは、450 名以上の方のお申し込みをいただいたということで大変ありがたく思っております。本来であれば、研究員が一時帰国をいたしまして皆様と直接お話しをさせていただく形での開催が望ましいのですが、こういった状況下でありますのでオンラインで開催させていただきました。

ご案内のとおり、ワシントンと日本は 14 時間時差がございますので、日本時間の朝10時、ワシントンの夜8時開始ということで時間設定をさせていただいた次第です。

今回、宮本研究員の研究成果として多くの情報が提供されましたけれども、その内容につきましては、加藤先生と山内先生に非常に的確におまとめをいただきましたので、特に私からコメントすることはないのですが、かつて鉄道行政、自動車行政の事務方の責任者としてあった立場からは、今回の発表では「TNC」と「公共交通」というキーワードに非常に興味を持ちました。アメリカで両者の関係がどのようになりながらこの「MOD/MaaS」が進んでいくのかということに注目していきたいと思っております。

また、山内先生からもお話がありましたが、新型コロナの感染拡大の状況下において、さまざまな分野で「With コロナ」、「After コロナ」の検討が進められておりますけれども、そのような中、冒頭宿利会長からの挨拶にございましたように、当研究所で「新しいモビリティサービスの実現方策検討委員会」を立ち上げ、我が国における持続可能な新しいモビリティサービスのあり方の検討を始めており、そこでの検討に際しても、アメリカ、ヨーロッパなどのこういった事例がどのような展開をみせていくのか、十分注目をしながら進めていきたいと思っております。

今回はアメリカの3都市の事例などを紹介いたしましたけれども、こういった最新の交通・観光事情を皆様にお届けするというのは私ども研究所の使命のひとつであると考えており、特にコロナ禍で人の行き来が困難になっている中、そういった役割というものが高まってきているのかなと思っております。特に私どもの研究所では、このワシントン国際問題研究所

に加えて、今後できるだけ早い時期にバンコクに新しい事務所を開設することとしておりまして、北米に加えて ASEAN・インド地域における情報の収集や発信といったようなこともさらに強化をしていきたいと思っております。

ワシントンの皆さん、お疲れ様でした。もう夜の10時くらいだと思いますので、気を付けて帰ってもらいたいと思います。

最後に宮本さんからコロナの状況についてお話がありましたが、コロナが公共交通に与えた影響やそれに対する公的支援等については日本でも非常に関心の高い分野でありますので、引き続きワシントンの方でリサーチをしてレポートしてもらえればと思っております。

今回、新型コロナの対応で、こういったリモート形式で実施をさせていただきましたけれども、視聴された皆様方には、今回の内容でありますとか、運営の方法についていろいろご意見があらうかと思っておりますので、大変お手数ではありますが、このあとアンケートにお答えをいただいて、意見をお寄せいただければ大変ありがたいと思います。皆様の貴重なご意見を今後の改善に役立てたいと思っております。

最後に重ねまして、皆様方のご参加に感謝を申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。